企画展

只見の川と水辺の生き物たち
―魚類と両生類

企画展「只見の川と水辺の生き物たち」にあたって

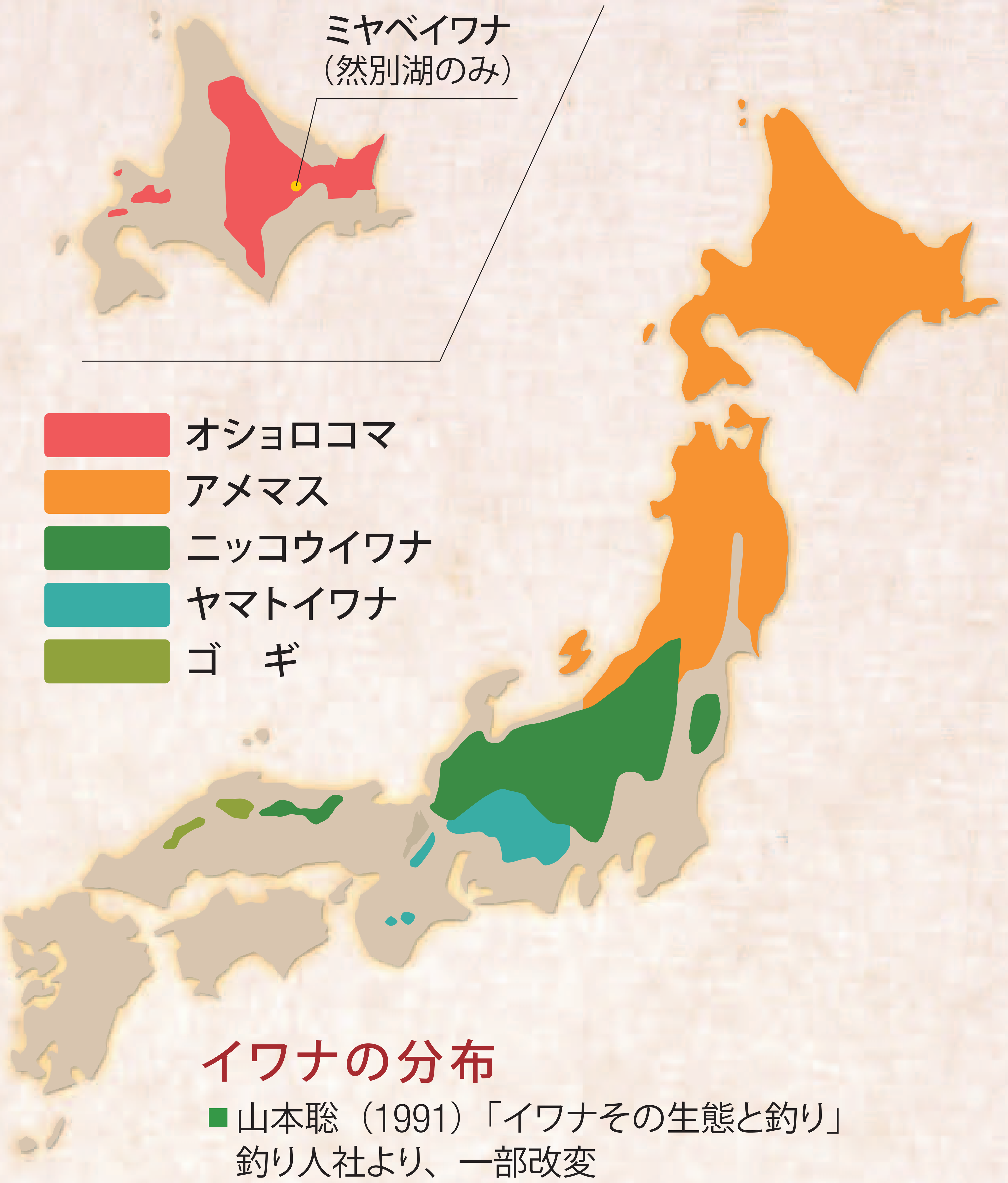
福島県只見町には、多雪環境の下、雪崩により削り取られた急峻で複雑な地形が連続する４万ヘクタールにもおよぶ広大な原生的な自然環境、森林地帯が存在します。その中を無数の細流を集める自然度の高い河川が流れ下り、やがて只見町の主要河川である伊南川、そして只見川へとつながります。まさしく、ブナ林に代表される森林とともに、河川と水辺は只見の重要な景観要素の一つといえます。

この河川とその周辺の水辺には、渓流魚や両生類をはじめとして、様々な生き物たちが生息し、地域の豊かな生物多様性を形作っています。中には、貴重な野生生物種も生育・生息しますが、それよりもなによりも、圧倒的に種類が豊かであり、個体数が多いのが只見町の特徴となっています。そうした中で、今回の企画展では川と水辺の生き物の代表である「魚類」と「両生類」に焦点を当てて、それぞれの種の分布と生態について詳しく紹介します。

また、これら川と水辺の生き物たちは、地域に暮らす人々にとっても身近な存在です。ヤマメやイワナ、ウグイなどの魚は、海から遠く離れたこの地域では重要なタンパク源であり、地域の食文化に深く結びついてきました。また、カエルやサンショウウオは、環境の健全性を指標するものです。この企画展では、こうした地域の生活文化や伝統についても解説します。

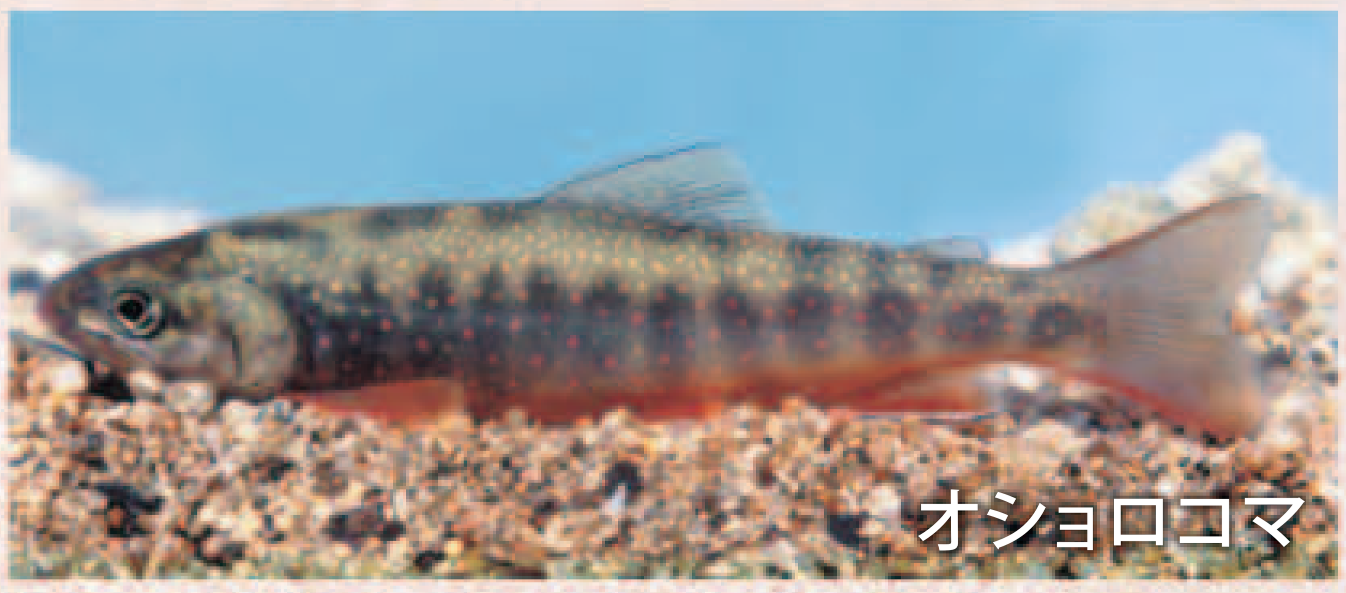
この企画展を通じ只見の川と水辺の生き物たちを知り、河川と水辺の環境の重要性を理解いただければ幸いです。

イワナの分布と生態



イワナの分布

■山本聡（1991）「イワナその生態と釣り」
釣り人社より、一部改変



イワナは、サケ目サケ科サケ亜目イワナ属の魚です。イワナ属の魚は、世界では北半球に広く分布しており、日本では北海道と本州に天然分布します。

日本にすむイワナ属の魚は、イワナとオショロコマの2種類で、北海道にはイワナとオショロコマが、本州にはイワナ1種のみが分布します。

日本のイワナは外見上、斑点の大きさやその色の違いなどから、地域によってアメマス、ニッコウイワナ、ヤマトイワナ、ゴギに分けられます。アメマスは北海道や本州北部に多く、ニッコウイワナは南東北や関東地方、中部地方（日本海流入河川）、北陸を中心に、ヤマトイワナは中部地方（太平洋流入河川）や紀伊半島に、ゴギは中国地方にみられます。

本州のイワナの多くは水温の低い山地渓流に生息し、昆虫やカエルなどの小動物を食べて全長35㎝ほどに成長します。北海道や東北地方北部、北陸などでは、河口近くまで水温が低いことから河口近くに生息し、海に降りて小魚を食べ、全長80㎝になる個体もいます。

只見のイワナ

Salvelinus leucomaenis

阿賀野川水系のニッコウイワナ

只見町の渓流に
生息するイワナ

　只見の沢や川には、ごく普通にイワナが生息しています。また、田子倉湖などでは小魚を食べて全長60㎝以上になった大物も釣り上げられています。しかし、只見では1970年代ごろから養殖により品種改良された様々なイワナが放流されました。そして、昔からいたイワナと交雑し、純粋な只見の在来イワナ（天然のイワナ）は、多くの場所から姿を消してしまったものと思われます。現在、只見町に見られるイワナの多くは、昔は生息しなかった、体に大きな白い斑点（はんてん）を持つアメマス（エゾイワナとも呼ばれる）、様々な大きさの直径、白色や薄い橙色（だいだいいろ）など様々な色彩の斑点を持つ正体不明のイワナです。

　では、只見に昔生息していた在来イワナはどんな個体だったのでしょうか？只見町周辺の南会津町（旧伊南村、旧田島町）、三島町、柳津町で、養殖イワナの放流のない沢でイワナを調査してみると、体には瞳（ひとみ）の直径よりも小さな橙色斑点を持つニッコウイワナが確認されました。このことから、只見に昔見られた在来イワナは、ニッコウイワナであったと思われます。ユワナと呼ばれ親しまれてきた只見の在来イワナの再発見が望まれます。

ヤマメの分布と生態

ヤマメ・アマゴの分布

■松原弘至（1982）「ヤマメ・アマゴの人為的攪乱 淡水魚増刊 ヤマメ・アマゴ特集」淡水魚保護協会より、一部改変

ヤマメ

アマゴ

サクラマス

サクラマスの河川陸封個体のヤマメは、サケ目サケ科サケ亜目サケ属の魚です。サケ属は、ヤマメの他に、ヤマメとは亜種ともされるサツキマス（アマゴ）、ヒメマス、そして秋田・田沢湖から絶滅したクニマスが含まれます。ヤマメは、イワナと同じく世界では北半球に広く分布しています。日本では、北海道と本州の東北地方と北陸地方以西の日本海側、関東地方（神奈川の一部除く）、九州（瀬戸内海流入河川除く）に分布します。本州や九州では、水温の低い山地渓流に生息していますが、イワナよりも下流側の、河川勾配のゆるい場所にみられます。特に昆虫などの小動物を食べて、全長30㎝前後に成長します。

サクラマスというマスと同一種で、サクラマスはメスの多くが海に降りてマスとなります。一方、オスの多くはヤマメとして河川上流に留まり（河川陸封）、秋にサクラマス（メス）と産卵します。北海道や東北、北陸などではオスも海に降りてサクラマスとなる個体がみられますが、南ほど海に降りるオスの割合が低いです。また、南の生息地ほどオスもメスも川に留まり、「ヤマメ」として一生を川で過ごしています。

サクラマスは3年の寿命で1回の産卵で死亡しますが、ヤマメは2～ 3年の寿命のなかで2回、あるいは3回産卵します。